

入学後の感染症対策について

実習に向けた各種ウイルス抗体検査及びワクチン接種について

三重大大学医学部では、入学後早期から病院・診療所などで実習を行います。医療施設での実習では、学生が感染症に罹患するリスク、ならびに学生が感染源となり医療現場へ感染症を持ち込む可能性があります。そのため、これらを未然に防ぐために、ワクチンにより予防可能な疾病については、事前に適切な対応をとっておく必要があります。

当学部では、入学前に各自のワクチン接種歴の確認と、必要があれば医療機関にて、検査又はワクチン接種を行っていただいております。**入学手続き時に**、ワクチン接種歴などを指定のフォームに入力し、各種証明書等のコピーをご提出ください。入学手続きまでに接種できないワクチン等がある場合は、入学後速やかに接種をし、各種証明書等のコピーを学務課にご提出ください。

検査結果及びワクチン接種証明の原本は今後必要になりますので、必ず保管しておいてください。

各種証明書のコピーの提出がない場合は、実習に参加できないことがあります。

なお、提出いただいた各種証明書等は、実習先の照会に応じ、提出することがありますので、ご了承ください。

また、実習施設によっては、基準を満たしていてもワクチン接種や抗体検査を求められることがあります。

【1】総論

1. 対象疾患（5種類）

- ・麻疹（はしか）
 - ・風疹（三日ばしか）
 - ・水痘（みずぼうそう）
 - ・流行性耳下腺炎（ムンプス、おたふくかぜ）
 - ・B型肝炎
- 【2】を確認してください。
- 【3】を確認してください。

2. 対象者

医学部医学科及び看護学科の新入生

3. 費用

ワクチン接種・抗体検査にかかる費用は、**各自負担**となりますので、ご注意ください。

4. ワクチン接種歴などを指定のフォームに入力し各種証明書のコピーを提出すること。

ワクチンの接種状況を確認し、必要があればワクチン接種、抗体検査を行ってください。その後、ワクチン接種歴などを下記 URL のフォームに入力し、母子手帳や接種証明、検査結果のコピーを学務課に提出してください。

ワクチン接種歴入力フォーム：<https://forms.gle/2BFpaix5am3jzNcs7>



当学部が接種を求めるワクチンのうち、一部は生ワクチンであり、重篤な急性疾患罹患中や免疫低下など、健康状態によってはワクチン接種不適当者に該当する場合があります。ワクチン接種が困難な場合は学務課に申し出てください。

【2】麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎に関するワクチン接種・抗体検査・各種証明書の提出について

各疾患に関して、接種状況や罹患状況を確認し、必要があればワクチン接種や抗体検査を行ってください。

（別紙 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 免疫に関する証明書のフローチャートを参照のこと）

(1) 時期

(医学科・看護学科) 別紙のフローチャートを参考にしつつ、入学前に母子手帳等を確認
必要があれば、速やかにワクチン接種や抗体検査を開始してください。

(2) 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の接種状況や罹患状況を確認してください。

母子健康手帳等でワクチンの接種歴を確認

(3) 必要があれば医療機関で各疾患の抗体検査やワクチンを接種してください。

(別紙 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 免疫に関する証明書のフローチャートを参照のこと)

- ・ 4つの対象病原体に対するワクチン（混合ワクチンを含む）を2回接種したことを証明する書類（例：母子手帳など）がある場合
→ 提出期日までに証明書を提出する。
- ・ 4つの対象病原体に対するワクチン（混合ワクチンを含む）を1回接種したことを証明する書類しかない場合
→ 不足回数分のワクチンを接種していただき、その接種証明書及び1回分の証明書を提出する。
- ・ 4つの対象病原体に対するワクチン（混合ワクチンを含む）接種を証明する書類は無いが、これまでに罹患したことがある場合
→ 抗体検査を実施。抗体価の数値によって、以下のとおり対応してください。
 - A. 抗体価陰性の場合：2回ワクチンを接種し、抗体検査結果及びワクチン接種証明書を提出する。
 - B. 抗体価陽性かつ基準値を満たしていない場合：1回ワクチンを接種し、抗体検査結果及びワクチン接種証明書提出する。
 - C. 抗体価陽性かつ基準値を満たしている場合：抗体検査結果を提出する。
- ・ 4つの対象病原体に対するワクチン（混合ワクチンを含む）を証明する書類がなく、罹患したこともない場合
→ 1か月以上開けて2回ワクチンを接種していただき接種証明書を提出する。

(4) 接種記録（必要回数分）や抗体検査結果のコピーを学務課に提出してください。

【3】B型肝炎に関するワクチン接種・抗体検査・各種証明書の提出について

麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎に関する各種証明書の提出が済み次第、B型肝炎に関して下記のスケジュールで、ワクチン接種と抗体検査を行い、接種記録(3回分)と抗体検査結果を提出してください。

(1) 時期

- (医学科) 2年生終了時まで完了するようお願いします。
- (看護学科) 2年生「看護介入基礎実習」前の8月初旬までに完了するようお願いします。

(2) B型肝炎ワクチン接種歴を確認してください。

母子健康手帳等でB型肝炎ワクチンの接種歴を確認

(3) 医療機関でB型肝炎ワクチンを必要回数接種してください。

- 過去の接種回数が0回、1回 の場合 → 3回接種（＊）
- 過去の接種回数が2回 の場合 → 1回接種
- 過去の接種回数が3回 の場合 → この段階での接種は必要なし

(＊) 3回のワクチン接種のスケジュールは、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン第5版」を参考に行ってください。

- ・ 1回目接種
- ・ 2回目接種(1回目の接種から4週間後)
- ・ 3回目接種(1回目の接種から20～24週間後)

(4) 医療機関で、HBs抗体検査（採血）を受けてください。

項目 : HBs抗体

検査方法: CLIA 法

ワクチンを接種した場合、抗体検査は、その最終ワクチン接種日から 4～8 週後に受けてください。

- ・抗体検査結果が 10mIU/ml 以上であれば、免疫獲得と判定
- ・10mIU/ml 未満の場合は、追加接種し、その後抗体検査を実施してください。
- ・追加接種については、もう 1 シリーズ(3 回)の再接種が推奨されています。

(5) ワクチン接種と抗体検査の各証明書のコピーを学務課に提出してください。

- ・ B型肝炎ワクチン接種(1 回目から 3 回目までの全て)について接種証明書
(母子健康手帳等 (B型肝炎ワクチン接種部分) やワクチン接種時の証明書など)
- ・抗体検査結果(最終)報告書

(*) ワクチン3回接種のスケジュール、追加接種については、

日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン第5版」を参考にしてください。

参考：

B型肝炎ウイルスは、ウイルスに感染している患者さんの血液や血液が付着した環境表面からわずかな傷を介して体内に侵入します。感染を防ぐ HBs 抗体 (HBs 抗原に対する中和抗体) を持っていないと感染が成立し、肝炎を発症する危険性があり、稀にですが劇症肝炎となって死に至る事もあります。最近では性行為や血液で汚染された注射器の誤刺等が感染の主な経路となっており、医療従事者はウイルスに感染した患者さんの血液を取り扱う機会が多く、十分注意をしても針刺事故等による B型肝炎ウイルスの感染が起こる事があります。医学部学生も、実習に備えて予めワクチン接種を行い、HBs 抗体を獲得しておく事が重要です。

三重大学医学部

(問い合わせ先)

三重大学医学・病院管理部学務課

Tel:

医学科 : 059-231-5063

看護学科 : 059-231-5239

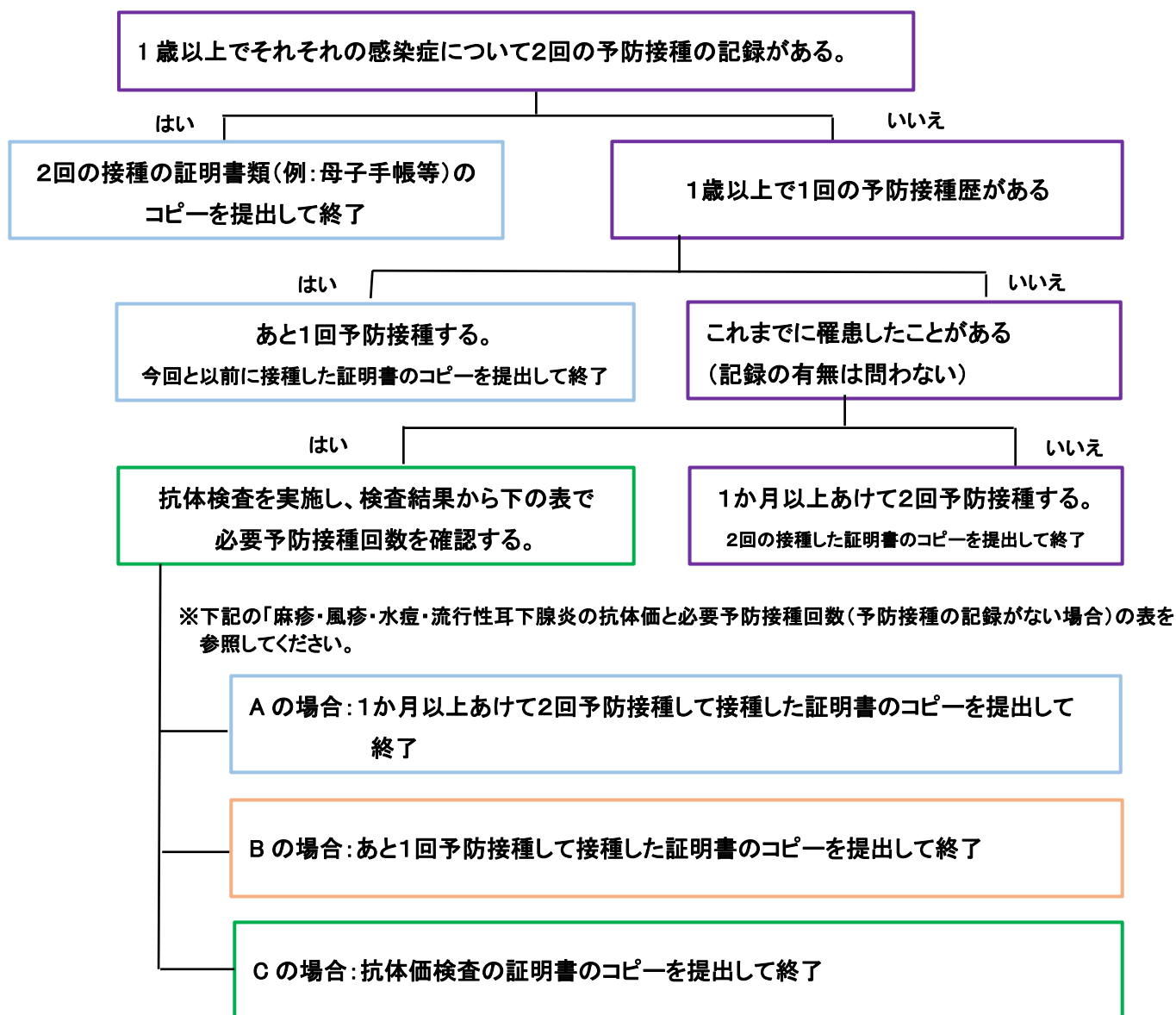
Email (医学科・看護学科) :

med-gakumu@med.mie-u.ac.jp

別紙

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎】に関する証明書のフローチャート

日本環境感染学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン第5版より抜粋



※麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価と必要予防接種回数(予防接種の記録がない場合)

各感染症の抗体検査方法		A あと 2 回の予防接種が必要	B あと 1 回の予防接種が必要	C 今すぐの予防接種は不要
麻疹	EIA(IgG) 法	2.0 未満	2.0～16.0 未満	16.0 以上
風疹	HI 法	1 : 8 未満	1 : 8, 1 : 16	1 : 32 以上
	EIA(IgG) 法	2.0 未満	2.0～8.0 未満	8.0 以上
水痘	EIA(IgG) 法	2.0 未満	2.0～4.0 未満	4.0 以上
流行性 耳下腺炎	EIA(IgG) 法	2.0 未満	2.0～4.0 未満	4.0 以上